

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

	大田区	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	評価者・人数	学校関係者記入欄 コメント
生予個 測別 る困目 力難 をな1 育未 成し社 会を 創造 的に		社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。 ②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。 ③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。 ④地域の自然や産業・人材を活かした特色ある教育活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が90%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が90%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が90%未満であった。	3 4 4 3	児童アンケート「生活科や総合的な学習の時間に植物を育てたり、体験したりする活動は、自分にとってめになりましたか」の肯定的回答(そう思う、思わなかった) 4:8割以上 3:7割以上 2:6割以上 1:6割未満 肯定的意見 87%	4 2 1 1	【これまでの取組】 ・大田区独自教科「おおたの未来づくり」の推進校として、校内研究において、単元のねらいや単元の指導計画、授業パートナーとの折衝などに1年間取り組んできました。 ・5年「おおたの未来づくり」、3年「総合的な学習の時間」、2年「生活科」の研究授業を行い、6年間の系統性を考えた学習内容について議論してきた。 ・エリア協議会において、5年実践「大田の工場を盛り上げよう」について授業公開を行い、自校の実践を同地域の学校に広めるとともに、他校の実践や他校からの意見をもとに自校の実践を改善することができた。 【今後の改善策】 ・「生活科」「総合的な学習の時間」「おおたの未来づくり」の系統性を持たせた指導計画を作成することが必要である。 ・学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進ため、体験活動や自己評価する活動を年間計画に位置付ける。	A B C D	・他者と協働することもできなくなりました。課題や問題点を自分事として捉えるための情報源の選択が大事になっていと感じました。 ・わくわくや、仕事や道德など積極的に行っている。 ・公開授業を開催していただき、内容を理解することができました。 ・校外での体験活動は、関心を持つ対象を詰め、生活に生かしていけるので、そのような機会をこどもたちに持たせてあげたい。 ・全体的に、評価は適切であると感じます。 ・地域の工場や商店街などの関わりを増やすことで、生きる力の育成が図られていると感じています。
お世個 界別と 目を つ標 担な2 うが人 材国 を際育 成都市 しします		英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。 ②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をも相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。 ③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の図っている。 ④豊かな人間関係を築くために異年齢集団による活動を実施して、自主性や思いやり的心を育てる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が90%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が90%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が90%未満であった。	3 3 2 3	児童アンケート「すんで英語を話そうとしたか」の肯定的回答(そう思う、思わなかった) 4:8割以上 3:7割以上 2:6割以上 1:6割未満 肯定的意見 74%	3 2 1 1	【これまでの取組】 ・担任と外国語教育指導員のチームティーチング、英語の歌などにふれることで英語や外国語に慣れ親しむとともに、ALTとの交流を通して、日常的に英語にふれる英語カフェや英語コーナの実施によって、外国の文化にふれる活動を行った。 ・4、5年生においては東京グローバルゲイトウェイにて1日英語だけで過ごす体験活動を行い、知っている英語や身振手振りを使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を育んだ。 ・全教育活動を通して、自他の生命・人権を尊重し、人やものに対する思いやりやいたわりの心を育んできた。 ・異年齢集団による活動として、縦割り班活動を実施し、他の学年の人となかよくして、自主性や思いやりの心を育てた。 【今後の改善策】 ・豊かな人間関係を築くために異年齢集団による活動をさらに実施する。そのために委員会活動の編成についての工夫や縦割り班の名称の募集、縦割り班による「お弁当給食」などを実施していく。	A B C D	・地球規模の課題とは何か、考える機会が少ないのかなと感じました。色々な国の子どもと交流をし、その国の現状を知ってもらい、そんな授業ができたらいいな見てみたい。 ・1日英語教室などよいので、英語に接する機会を拡げてほしいというと思う。英語を話してみたいという関心はもっと拡げられたいと思う。 ・外国語と日本文化の2本柱をどこまで推すか(成果目標の判定に使用するのか)は難しい点。異年齢交流を柱にした方が伝わりやすいかもしれません。
た一個 人別の ひ目基 と標 礎り3 がな個性 力を能 育力成 をを発 揮する		児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等で学ぶ機会を通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。 ②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。 ③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。 ④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、幼小小の連携や幼小一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が90%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が90%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が90%未満であった。	3 3 3 3	児童アンケート「自分のことや自分の命を大切にしようと思いますか。」 4:73.6% 3:22.5% 2:1.6% 1:1.0% 肯定的回答 96%	3 3 2 1	【これまでの取組】 ・道徳授業の場面絵やワークシートを専用の棚に保管することで、教材を共有することができ、指導の充実につながることができた。 ・道徳授業地区公開講座などでは「生命尊重」をテーマに全学級で授業を行い、命の大切さについて考え、豊かな情操心の育成を図った。 ・全学級で算数科における少人数指導を実施し、習熟度に応じた指導や個に応じた指導を展開し、確かな学力の育成を図った。 ・コーディネーション運動を全校で取り入れたり、一部の学年で継続して取り入れることで、健やかな体の育成を図った。 【今後の改善策】 ・道徳授業の指導方法や内容にばらつきがあるので、校内研修や基本的な型をOJTと道徳教育推進教師の師範授業などを通して全教員に周知していく。 ・放課後補習教室の時間を従来より伸ばし、学力の定着を図っていく。 ・コーディネーション運動を日常の体育の学習でも取り入れ、体幹を鍛え、運動能力の向上を図る。	A B C D	・一人ひとりにあった授業が行われているので、個性豊かなこども達が生きていく中で学校生活を送れていると思います。命の大切さを低学年からしっかりと教えていくことが、健やかな体、豊かな心につながると思います。次は低学年の道徳の授業の参観をしたいです。 ・細かいところまでは中々大変で時間が掛かります。 ・コーディネーショントレーニングを取り入れているのがよい。 ・道徳の公開講座、算数科での少人数授業などの試みは、こどもたちへのよい刺激になればよいと思う。 ・児童が小さくとも継続的に成功体験を積み重ね、自己肯定感を高めるような教育が効果的ではないかと考えます。
学個校 校別別 目・目 標・標 教4 師力を を向上 させま す		校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。 ②教職員がそれぞれの専門性を生かし、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。 ③教職員の業務適正化等に取り組む、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。 ④校内研究・校内研修を活性化し、教員の指導力向上に努力している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が90%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が90%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が90%未満であった。	3 3 3 3	保護者アンケート「先生たちはこどもたちの実態に合わせた授業をしているか。」 4:43.6% 3:35.0% 2:2.2% 1:1.6% 肯定的回答 90%	4 	【これまでの取組】 ・月に一度、校内OJTを実施した。教職員が専門性を生かして基本的な授業の進め方について指導を行い、授業についての悩みを共有したりして、授業改善に努めた。 ・教職員が専門教科の校外研修に行った際には、その都度、研修内容や校内の教職員に還元し、学校としての専門性の向上に努めた。 ・校内研究では、次年度から大田区で全面实施となる、教科「おおたの未来づくり」についての研究を行った。「地域をよりよくする児童の育成」を目指し、年間3回の研究授業を行った。 ・職員会議や打ち合わせを計画的に行い、会議時間を短縮できるようにした。その分の時間を教材研究やブロック団での情報共有の時間にあてることができた。 【今後の改善策】 ・学校経営方針に基づき、児童も教師も「なりたい自分の実現」に向けて、令和7年度の校内研究を進めていく。地域の特色を生かし、各教科の学習内容に即した体験活動や校外活動を行い、児童の学習のさらなる充実をはかっていく。	A B C D	・教員が地域の特色を生かせるように、地域の人間として協力できることは何でもしたいと思っています。地域の(学)運協の委員など教員の交流の場があると良いのかなと思いました。 ・教師、校長先生、みなさんの前向きな姿勢を感じます。 ・先生が教育活動の幅広い面に取り組んでいることを保護者アンケートではおおむね理解されていると思われる。 ・学校公開等の機会を増やすことが、教員の成長、保護者の理解につながると思います。
た自個 め分別 のら目 学し標 びく5 をい き援 いし きと す生 きる		困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ること、すべての児童・生徒が自分らしいいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携を行っている。 ②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。 ③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。 ④問題行動の予防や解決に向けて、規範意識の確立に取り組んでいる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が90%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が90%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が90%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が90%未満であった。	4 4 4 4	児童アンケート「学校の外で、何かにちようせんたり、がんばったということがありますか。」の肯定的回答(そう思う、思わなかった) 4:8割以上 3:7割以上 2:6割以上 1:6割未満 肯定的意見 83%	3 2 1 1	【これまでの取組】 ・6月と11月の子ども心サポート月間では、学校生活調査や学級実態調査(WEBQJ)の結果を分析し、スクールカウンセラーとの面談や教育相談を実施して、悩みや不安などの早期発見や早期対応に取り組んだ。 ・いじめに関するアンケート(各学期1回以上)、スクールカウンセラーとの連携による教育相談体制の充実を図り、「未然防止」「早期発見」「早期対応」を行った。 ・不登校児童へは、管理職、担任、養護教諭やスクールカウンセラーが情報を共有し、組織的な取組をして児童や保護者を支援してきた。 ・生活指導の充実のため、問題行動対応サポート専門員との連携を図り、児童が楽しく安心して学校生活を送ることができるようにした。 ・生活指導支援員や生活指導補助員の支援や必要に応じて警察、SSW、SC、児童相談所や子ども家庭支援センターなどの外部諸機関を活用してきた。 【今後の改善策】 保護者アンケートの中で「学校は、いじめを見逃さない、いじめがあったときには対応している。」の設問に対し、「分からない。」の回答が29.8%あった。毎学期児童アンケートを実施している。関係諸機関と連携していじめ対策をしている等、保護者へ伝え、知っていただく必要がある。	A B C D	・いじめがなければ、対応してくれたという回答は減ると思うが、いじめがあるかないか、興味がない保護者もたくさんいるのではないかと感じます。良い情報を保護者同士が共有できる機会があれば良いと思います。 ・不登校の児童にも力を入れていて、強制しない。 ・いじめへの対応を広く理解してもらうことは、個人情報保護の観点から難しいところがあると思う。また、個々の事例は種々異なる、苦勞が多いと思う。 ・改善策にあるとおり、児童にも保護者にも、学校の姿勢と取り組みを積極的に伝えることが必要だと考えます。
り安間柔 ま心と軟 目教別 教安創 目別 育造 育造的 環境な をつ学 く習 空		学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備とともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。 ②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が90%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が90%未満であった。	4 4 4	児童アンケート「タブレットや本などを使った学習をしていますか」の肯定的回答(そう思う、思わなかった) 4:8割以上 3:7割以上 2:6割以上 1:6割未満 肯定的回答 89%	4 	【これまでの取組】 ・ICTを用いて、一人一人に適した学習環境を整えることができるようになってきている。 ・避難訓練の事前指導を徹底させることによって、より安全に避難をする訓練を積み重ねることができている。 ・6年生が防災教育に取り組み、防災意識を高めることができた。 【今後の改善策】 ・安全指導の内容を全校で共通理解するために、来年度は全校朝会時に安全指導を行う。	A B	防災教育と地域が連携できるような時が来ると良いと思うのですが、難しいですね。6年生の防災教育と3年生の消防団の見学が何かコラボしてみてもらいたいかなと思います。 部屋を増やす空間を作る事に努力している。 いろいろな取り組みをすすめていると思われ、よいことと思います。 ICTの活用は、授業等で当たり前の事となっており、定着していると考えます。
学地学個 校校校 域域域 ををを コ・目 ツミ マ										

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
Q記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
Q各校間を横断する評価の「評価」は、A：自己評価は適切である B：自己評価はおおむね適切である C：自己評価は適切ではない D：評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。